

まちづくりは人と人との関係づくりから

「白石まちづくりフォーラム」出会うの場づくり



「地域の茶の間」で昔遊びを楽しむ親子

白石をより元気なまちに

地域では、住みよい地域を作る活動、子どもたちのための活動、文化を育てる活動など、まちを元気にする多様な市民活動が行われています。その活動内容を発表したり、意見交換したりする「白石まちづくりフォーラム」出会うの場づくりが七月三日、区民センターで開催され、約百八十人の区民でにぎわいま

した。

区内で地域に向けて活動している団体のことを多くの人に知ってもらいたい。まちづくりを身近なものに感じてもらいたい。多くの方と交流することによって、新しい出会いや発想を見つきたい。そう考えた白石まちづくりハウスのメンバーが企画に乗り出し、白石地区ネットワーク会議とともに実行委員会を結成。約半年間、「どうしたら自分たちの活動をわかりやすく伝えられるか。関心を持ってもらえるか」と、何度も話し合いを重ねてきました。まさに、地域が主体となったまちづくりのイベントなのです。

不安を安心に変える

フォーラムの第一部は「地域の茶の間を体験しよう」。「地域の茶の間」とは、新潟市で開催されている、気が

向いたら誰でも行ける地域の憩いの場のこと。アットホームな部屋の中には、お茶、お菓子のほか、囲碁、将棋、折り紙などの遊び道具、昼寝用のタオルケットなどが用意され、訪れた人が好きな時間、好きなように過ごせるよう、あらゆる気遣いがされています。おしゃべりを楽しんだり、子どもを預けて買い物に行ったりと、独り暮らしのお年寄りや親元を離れて暮らす若い夫婦など、さまざまな世代の人がここを訪れます。

今回のフォーラムでは、そんな空間を白石区風にアレンジ。昔遊び、絵手紙、ゆら織り体験、絵本の読み聞かせなどのコーナーを用意しました。また、新潟市で茶の間を始めた河田珪子さんの基調講演も実施。河田さん自身が親の介護に追われ、誰かの助けが必要だったこと、そこから茶の間を始めるまでの歩みを中心に、地域でのちょっとした助け合いが不安を解消し、安心を手に入れることができるというお話を聞きました。



▲「地域の茶の間」の絵手紙コーナーは、ほとんどの人が初挑戦！茶の間の各コーナーは、それぞれの分野で活動している区民がボランティアで世話人となり、参加者に手ほどきをしながら行われました